

担当者スポット

日廃振センター業務から感じたことを綴る「担当者のコラム」

教育研修部 参与 土屋 康治 TSUCHIYA Kouji

通勤時のエール

猛暑と雨降り以外は約２キロの距離を徒歩通勤している。

最初は日頃の運動不足を補うためにと始めたが、駅に向かって来る人、勤務先に向かって行く人、すれ違う人の中に毎日同じ時間、同じ場所ですれ違う人が何人もいることに気付いたり、ジョギングをしながら通勤する人の着替えの心配をしてみたり、すれ違う人の服装で季節や流行を感じてみたり、いろいろな楽しみ方をしながらの通勤に変わった。

別に挨拶を交わすわけでもないが、家を出る時間が多少前後し、いつものすれ違う人と会えなかったりすると何となく寂しい思いをしたりもするので、極力同じ時間に家を出るようになった。

人ばかりではなく、もう一つは、隅田川に架かる永代橋を渡る時である。毎日同じ時刻に上流に向かって、曳き船に曳かれた廃棄物を運搬する空のだるま船を真上から見ることである。曜日によってはだるま船が２隻連結の時もある。隅田川沿いには２箇所、神田川に１箇所のだるま船への積み替え基地があるとのことだが、私の知っている神田川と日本橋川分岐点近くのごみの積み替え施設に向かうのだろうと、かってに思いながら橋の下を通り過ぎるまで見ているときもある。きっと午後には満杯に積み込んだ廃棄物を中央防波堤最終処分場まで運ぶのだろう。

深川という川の手に住んでいる関係で浮遊しているペットボトルや一般ごみを拾い集める河川清掃船は我が家の近くでも見ることができるが、曳き船に曳かれた大型のだるま船は隅田川でないと見られない。

河川や運河を利用した廃棄物の運搬は都心の道路を走る車より効率が良い上に、エコでスマートな運搬方法であるのは確実で、運河の発達した都市ならのシステムである。

廃棄物に係わる業務をしている関係もあり、だるま船に向かって、「今日もがんばろうぜ」とエールを送りたくなる一瞬でもある。

さあ、遅刻しないように、あと１キロがんばって歩こう。

編集後記

昨年の世相表わす漢字に、「新」が選ばれました。産業廃棄物・環境の分野でも、様々な新しいことが起きました。温室効果ガスの25%削減、廃棄物３Rと地球温暖化対策を両立させる「コベネフィット」の推進、低濃度PCBの処理体制の構築、廃棄物処理制度専門委員会の報告案作成などです。

今年は、民主党政権が打ち出した新たな政策が、スムーズに社会に受け入れられ浸透していくか、試される年になると思われます。産業廃棄物・環境分野の政策もその１つとなりそうです。

本誌に関するご意見等の連絡先：事業推進部　e-mail:jigyo@jwnet.or.jp

日廃振センター情報（季刊）Vol.9 No.4　発行日：平成22年1月20日発行　発行人：古市圭治
発行所：財団法人日本産業廃棄物処理振興センター
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-8-4 日本橋コアビル2階　TEL: 03-3668-6511　FAX: 03-3668-6512　http://www.jwnet.or.jp/
デザイン・印刷　株式会社ウィトンズ